

EUでは鶏、豚のケージ飼養の終焉を模索

EUでは動物福祉の観点から、鶏や豚のケージ飼養を終わらせよとの要求が高まっています。しかしながら、科学的な観点からケージ飼養の注意点について述べられた報告は意外と少なく、オランダのエトレヒト大学ではこの点について解析しました。

行動学的視点から

家禽でケージでの飼養をやめることは、動物の行動と福祉にプラスの影響を与えることが知られています。これは、ケージのない環境下では、動物が自然な行動を示すことができるためです。それをケージ飼養で達成することは困難または不可能です。持続可能性に関しては、ケージ飼養とケージフリーの間で環境、社会、経済への影響に大きな違いは見られませんでした。しかし、ケージフリーは新たなリスクをもたらすことがわかりました。たとえば、羽をつつく、感染症や社会不安のリスクが高くなります。実際、報告書は、両方の飼養システムには動物福祉の面で賛否両論があると述べています。数十羽が飼養できる規模のケージシステムでは、死亡率、寄生虫病、産卵中の骨折、羽毛のつつきと共食いなどに関して、少なくなるなどのより良いパフォーマンスを示しました。一方、ケージフリーシステムは、骨粗鬆症、採餌、砂浴びができることに関して、より良い成績を収めました。ただし、寄生虫病のリスクは、ケージフリーシステムでより高くなりました。したがって、ケージのない飼育方法へ切り替えを成功させるには、農家は訓練を受け、新しいシステムでの作業手順を学ぶ必要があります。

豚の飼養環境においては、自由分娩および複数授乳の豚生産システムは、行動の自由、雌豚との絆と雌豚同士からの学習、および社会的行動の適切な発達の中で、従来の雌豚と子豚の閉鎖的な分娩箱に比べて明らかな利点を提供することがわかりました。しかし、報告書は、柵や飼槽などの損壊や子豚の野蛮さを防ぐために、注意を払う必要があることを強調しました。

ケージフリーの実現

この研究は、ケージのない代替品への切り替えが可能であることを示しましたが、これを実際にどのように達成できるかは依然として疑問です。

農家が切り替えを行うのは魅力的なものにする必要があります。必要な投資は農家の製品に付加価値をもたらす必要があります。そして消費者はこれに対して、もう少しお金を支払うことをためらわないことが重要となります。そのためには、農家と消費者の間に意識共有が必要です。

短期的には、消費者がより意識的に買い物をするのを可能にすることが必然です。そのためには、新しい福祉に優しいシステムへの補助金や、製品の福祉ラベルなどの財政的措置を必要とします。長期的には、法律により特定の家畜種のケージ飼養が禁止されることが必要だそうです。ケージフリー飼養は、いずれは世界の趨勢になるようとしています。しかし、現実的には多くの解決すべき問題が残っており、一筋縄ではいかないことを物語っているようです。

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用に PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく申し上げます。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。

QRコード

このメールマガジンを紙媒体でお読みの方が、容易に[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできるようにQRコードを添付しました。

